

ブドウで遊休農地の解消を ～起こせワインツーリズム～

3年後のワイン醸造を目指して、南三陸町ワインプロジェクトが動き始めた。「ワインブドウ植樹祭」が4月23日、町内外から約60人が参加して行われた。

この日植樹したのは入谷地区の25アールの圃場にシャルドネという品種500本で、参加者は皆楽しく交流を深めていた。

このプロジェクトの仕掛け人でもあるのが、藤田岳さん(29)である。

藤田さんは、震災後に埼玉県から移住し、現在、地域おこし協力隊としてこのプロジェクトを代表する。

担い手不足で遊休化している農地にブドウの栽培を行い将来的にはワイナリーの建設を夢見ている。



「なんとかして町の農業の活性化を図りたい。地域のブドウ作りを根付かせることで、遊休農地の解消に役立ち、多くの町の資源を活用した循環型農業の確立、さらにはワインと水産物を一緒に味わってもらうことで、水産業なども盛り上がる。

グリーンツーリズムならぬワインツーリズムと言う観光が成り立つのではない

か」と、藤田さんは笑顔で話してくれた。

まだまだ栽培技術等の課題が多いプロジェクトですが、東京オリンピックが開催される2020年には南三陸町産ワインに舌鼓を打ちながらテレビ観戦も夢ではないかもしれません。